

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4690700010
法人名	社会福祉法人 愛誠会
事業所名	グループホーム 芦穂の里
訪問調査日	平成 21 年 8 月 26 日
評価確定日	平成 21 年 10 月 22 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月7日

【評価実施概要】

事業所番号	4690700010
法人名	社会福祉法人 愛誠会
事業所名	グループホーム 芦穂の里
所在地	鹿児島県奄美市名瀬大字大熊字浜1309-3 (電話) 0997-57-7705

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市城山1丁目16番7号
訪問調査日	平成21年8月26日 評価確定日 平成21年10月22日

【情報提供票より】(平成21年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 6 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	7 人 常勤 7 人, 非常勤 人, 常勤換算 7 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	階建ての 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	3,000円 (光熱費)
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85 歳	最低	71 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	平瀬医院 ・ 島山歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道58号線沿いから少し山手に入った住宅地に建てられている。広い敷地の庭には、びろうの木やハイビスカスなどの南国特有の植物が多く植えられている他、菜園も作られている。山の斜面には防災用の砂防ダムが完成し、災害時におけるホームの安全が確保されている。職員の年齢層にも幅があり、島言葉での会話は利用者の笑顔を引き出している。利用者の力を発揮してもらおう場面作りにも心がけ、来客の接待、見送り、掃除、雑巾を縫って保育園に届けたりと利用者が活躍している。また、職員を労うことも忘れず「よくしてもらってありがたい」という言葉は職員の励みとなっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果については、職員会議で報告している。改善課題は、重度化や終末期に向けた方針の共有で、法人との話し合いが行なわれ、方針が決定されたが明文化されていないため、取り組み継続中である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員会議で前年度と比較し、ケアについての内容を振り返りながら職員の意見を聞き管理者がまとめている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>昨年度の運営推進会議は年3回、自治会長、民生委員、家族代表、法人代表、行政が参加して行なわれている。利用者の状況、活動状況、行事予定などを報告し参加者の意見交換をしている。地域代表が参加しているので、救護講習を公民館で地域の方と一緒にこなうことができ、地域の方々との交流が深まってきている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族からの意見や要望については、面会時に個別に伺うようにしている。家族から出された意見や指摘された内容については、申し送りノートに記載し職員で話し合い共有し、運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し地域の敬老会に参加したり、地域の行事ではホームに来てもらったり、保育園児との交流、職場体験の受け入れなどを行なっている。保育園や小学校との交流のお礼に、利用者が雑巾を縫って届けたりと交流が深まっている。</p>

評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成20年1月頃、管理者と職員で話し合い、その人らしさを大切に、地域の中で安心して生活が送れるようにとの思いで、新しい理念が作られており、取り組みもなされているが、理念の中にその思いを表す文言が加えられていない。	○	地域密着型サービスとしての理念であることをふまえ、職員が日々意識付けできるような文言を付け加えられることを希望します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	タイムカード横やホールに理念を掲げ、職員が日頃から確認できるようにしている。「あなたの望む暮らしが送れるように支えます。」の理念を実践できるように、利用者の自己決定を大切にしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域で行なわれる行事(納涼祭、敬老会、ムチモレ踊り)に参加している。婦人会の踊りのボランティア、専門学生の体験実習の受け入れ、小学校や保育園児との交流などが行なわれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議の中で、前年度の自己評価と比較しケアの振り返りを行ないながら、職員の意見を聞きつつ管理者がまとめている。前回の外部評価の結果については、職員に報告しているが内容については、法人と話し合い検討中である。	○	職員は、評価を行なう意義を理解して取り組んでおられるので、今後は職員一人ひとりが評価に関われる工夫と、自己評価や外部評価の改善課題について取り組みの記録を残される事を期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成20年度の会議は年3回、自治会長、民生委員、家族代表、市町村担当者、法人代表などが参加して行なわれている。利用者の状況や活動状況、行事案内などの報告後、意見交換を行なっている。救護講習を公民館を借りて地域の方と一緒に参加するなど、会議を通して地域との交流も深まってきている。	○	昨年度の運営推進会議は年3回に留まっているので、定期的に年6回、開催出来るように努めていただきたいことと、家族の参加が少ないので、会議の意義を説明し参加してもらえるように工夫されることを希望します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは、日頃から利用者についての相談や認知症サポーター養成講座を連携して開催するなど、協力体制をとってサービス向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日常生活の様子や健康状態、介護状況(食事、入浴、排泄、睡眠)などを記載し、2ヶ月に1回家族に送付している。職員の異動は、3ヶ月ごとに発行される法人の便りで報告している。行事は、利用者には手紙を書いてもらったり、面会時や電話などで案内している。金銭は預かっていない。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や要望については、面会時に個別に何うようにしている。家族から出された意見や指摘された内容については、申し送りノートに記載し職員で話し合い共有して、運営に反映させるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	辞職する職員がいる場合は、利用者には辞めることを伝え、辞めてからも遊びに来てもらうなどしている。新しい職員には、1ヶ月かけて慣れてもらうように指導職員をつけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修や外部研修に行った職員は、職員会議で報告し伝達講習を行なっている。職員の受講が偏らないように配慮している。	○	職員の、個別対応や柔軟な支援が求められる地域密着型サービスの実践力を見につけていくためにも、段階的に力をつけていけるような、事業所としての研修の年間計画をたて、職員の質の向上に努められることを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大島グループホーム連絡協議会に加入し、職員の研修に参加し交流している。計画作成担当者の勉強会では、事例検討会などが行なわれている。	○	職員が同業者との交流をすることで、事業所内で行き詰まった問題の解決にもつながり、自分のホームの良さに気づくことにもなります。これから職員の相互訪問などの交流に期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設や病院からの入所の場合には、職員が出向いて情報を収集し、本人と馴染みの関係を築くようにしている。自宅からの場合には、本人、家族に見学に来てもらい雰囲気を感してもらっている。入所後は、方言での声かけを多くし寄りそうことを心がけ、家族には、面会を多くしてもらうなど配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の職歴や生活歴から、奄美の昔の様子を語ってもらったり、お客様の接待、怪我をした職員の手当ての手伝い、雑巾縫いなどの場面作りを多くし、して頂いた時には感謝の言葉を伝えながら、支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所間もない利用者とは、じっくりゆっくと会話を多くし思いを言葉で聞くようにしている。その後は、職員の気づきや日頃の会話の中から本人の意向を引き出すような声かけを心がけ、把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議に出席できない家族には、電話や面会時などに家族の意向を確認している。毎月のカンファレンスで上がった職員の気づきや主治医の意見書、本人、家族の意向を反映させた介護計画書となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員はサービス内容に対してのチェックを毎日行い、モニタリングは毎月行なっている。3ヶ月に1回、職員全員で見直しを行ない、状態に変化があった場合には、家族や関係者と話し合い新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族からの要望があれば、病院受診の介助や送迎、外泊の支援など柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望するかかりつけ医となっている。他科受診については紹介状を書いてもらい、適切な医療が受けられるように情報提供をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所としては、終末期ケアを行なっていく予定はなく、法人内施設への転居ができるように連携を図っていく事を家族に説明している。	○	事業所としての対応について明文化されると共に、重度化に伴う意思確認書を作成し、家族からの同意を得られることを希望します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の入職時には、守秘義務の誓約書を交わしている他、利用者の契約時に、個人情報提供同意書を取っている。利用者のプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせ、起床時間が早い方、遅い方、菜園の草取り、犬の世話、時間や気候に合わせての散歩など希望に沿って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量に合わせて、野菜の下ごしらえや片付けなどを行い、1つのテーブルを囲み一緒に食事をしながら食が進むように職員は配慮している。誕生日には手作りケーキでお祝いしたり、個々かグループ単位で外食をしたりと食事を楽しむ工夫がされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2～3回と決めているが、本人の希望があれば毎日でも対応できる。拒否される方には、声かけのタイミングや職員を代えるなどして工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の出来る事を探し、掃除、洗濯物たたみ、犬の世話、食器拭きなど行なってもらっている。楽しみごと気晴らしは、毎週日曜日のドライブ、レクリエーションでの唄や踊り、絵を描いたりすることで、体調に配慮しながら支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホールから繋がっているウッドデッキと玄関には、イスが置かれているので朝、夕の涼しい時間帯に活用したり、お茶を飲んだりしている。敷地が広く、散歩や菜園の草取り、収穫、買い物、ドライブと戸外に出られるように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵はかけていない。今は、外出傾向のある方はいないが、近隣住民には協力をお願いしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署指導の下に、夜間想定避難誘導訓練が年2回行われている。近隣住民の協力が得られるよう働きかけている。	○	砂防ダムが完成しているが、大雨警報が発令された時の避難場所の確保や、職員が自信を持って避難誘導できるようにさまざまな災害を想定した自主訓練を行うことを希望します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量については把握されている。水分補給が少ないと感じた方には、お茶やカルピスゼリー、とろみをつけたりと工夫して水分確保に繋げている。栄養バランスについては、年1回カロリーの勉強会を行なっている。食事形態は、とろみをつけたり小さくおにぎりにするなど対応している。	○	水分摂取は、病気の早期発見や認知症進行予防にもなることから、全職員が意識して関わるためにもチェック表を作られることを希望します。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の外も内もスロープになっていて手すりが付けられている。ホールの一段高くなっている畳の間にテレビがあり、それを囲むようにソファが置かれ、思い思いの場所に座っている。廊下も広くゆったりとした造りで、落ち着ける雰囲気である。旧暦の七夕飾りがおかれ、壁には利用者の描いた色鮮やかなお花の絵が飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のベットは備え付けだが、タンスやテレビ、パイプハンガー、位牌、写真などを持ち込み、居心地よく過ごせるようにしている。夜になると不安がる方には、ホールの畳の間で休んでもらっている。		